

カパー ロマン

銅とともに 歩んできた技術者人生



大木 和雄

社団法人日本銅センター会長
(日鉱金属株式会社)
代表取締役社長

私は、会社に入って今年で34年になりますが、技術者としてはずっと銅に携わってまいりました。振り返りますとこのきっかけは大学時代にあったような気がします。

大学2年の時、進学する専門を決めなければならぬときがありました。私は当時から金属に関わる技術を勉強したいと思っていました。そこで、いまから言えば観念的ですが、大学ではより基礎的なことを学ぼうと考え、理学部の無機化学科に進みました。理由は、当時無機化学分野では金属の錯体化学が盛んであり、自分もこれを勉強したいと思ったためです。それから修士課程までの4年間は、ずいぶん遠回りをしたようです。

さて、会社に就職する時期になり、当然金属会社への就職を希望しましたが、無機化学を学んだ者として、冶金中心の乾式主体の鉄鋼は敬遠しました。二月、その頃はアルミ製錬の全盛期で、無機化学の卒業生の多くはアルミ製錬会社に就職していました。その時、私はアルミに行かずに、銅製錬の会社である当社に入りました。その理由は、昔から銅地金の色が好きだったからです。なんともいかげんな話ですが。

当社に入社して、配属ということになりました。化学出身者は、研究開発、あるいは現場でも硫酸や電解部門への配属が普通でしたが、フタを開けたら、なんと敬遠していた乾式製錬の現場でした。「しまった、大学の時に冶金に行っておけばよかった」と思いましたが、後の祭りです。この乾式製錬を振り出しに、ほぼ10年間銅製錬に携わり、次の15年間は電子材料関連の仕事をを行い、その後は伸銅品分野の業務に関わってきました。

しかしながら今になって考えてみますと、理学部の無機化学を学んだことは正解であったと思います。専門知識はなかくとも、科学的な思考が鍛えられたおかげで、常に新しいことに挑戦し、ゼロから学ぶことに抵抗がなく、好奇心が先になったからであります。

入社以来これまでの間、銅にかかわるバルク汎用品からフライング特殊用途品)まで、ほぼすべてを経験することができました。銅の色に魅せられてから今まで技術者として幸福であったと、銅に感謝しております。



銅精製



美しく輝く銅製品

銅

第157号

目次

巻頭言	2
カパーロマン	2
「銅とともに歩んできた技術者人生」	2
大木 和雄	2
銅の歴史物語 ⑮	3
職人の手技が生み出す抜群の切れ味「純銅おろし金」	3
銅と暮らしのロタリー ⑰	4
百年先を見据えて生きる「佐賀関リレー」随想	4
青銅の魔力	6
タカザワケンジ	6
ユザイ訪問	8
ヒーロー電機株式会社	8
New Copper Structure	10
大阪市中央公会堂を魅了させる保存再生にその特性を生かす銅屋根	10
銅を学ぶ銅話の世界 ⑮	12
銅の千羽鶴	12
銅の需給動向	13
銅センターニュース	14
ニューストビックス	14

表紙のことば



大阪市・中之島にある名建築・中央公会堂がこのほど再生され

た。赤レンガと緑青色の銅屋根が印象的なこの建物が、今の技術で大正ロマンそのままに生まれかわった。人々の熱意が時間を超えたのである。